

(新) 土壌環境リスクコミュニケーターの登録・研修等事業

(再チャレンジ支援策関連)

21百万円(0百万円)

水・大気環境局土壌環境課

1. 事業の概要

土壌汚染のおそれがある土地についての調査や対策を円滑に進めるためには、土壌汚染対応の説明に対する土地所有者等の不安を払拭し、地域の関係者に、説明者の中立性、公平性の立場からの信頼を得ながら土壌汚染の現状と対策について情報伝達を円滑に進める、リスクコミュニケーションの推進が必要。

このため、長年土壌汚染調査・対策に従事して一線を退く方々（特に団塊世代）の知識と経験を活かし、土壌汚染の調査・対策の現場のリスクコミュニケーションへの活用と人材育成の推進を図る。

具体的には、リスクコミュニケーションガイドラインの作成、人材育成プランの作成、人材登録・派遣・活用システムを検討・整備する。このことにより、実際の土壌汚染対策の現場で活躍し離職した人材等の人生再チャレンジを支援する。

2. 事業計画

| 調査項目 | H19 | H20 | H21 | H22 |
|----------------------|-----|-----|-----|-----|
| ガイドライン作成 | ←→ | | | |
| 人材育成、登録、活用システムの検討・実施 | ← | | | → |
| 派遣システムの検討、整備 | | ←→ | | |

3. 施策の効果

土地所有者等の不安が払拭され、土壌汚染調査・対策が円滑に実施され、塩漬け土地の解消や土地の流動化、都市の再開発等が円滑化するとともに、高齢者・団塊世代に新たな活躍の場が生まれ、雇用促進が期待される。

提言4：リスクコミュニケーション市場の創出 ~ 土壌のフィールドを起爆剤に ~

背景 土壌汚染対策に係るリスクコミュニケーションを担う人材不足
 土地所有者等のリスクコミュニケーションの不安が払拭されない
 土壌汚染対策が進まない現状(塩漬け土地化)

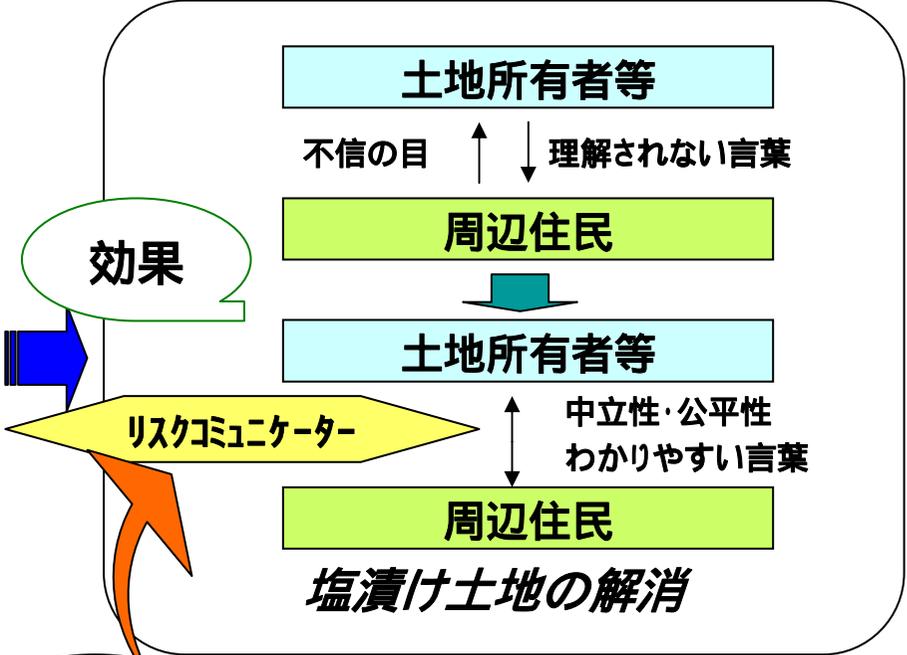
長年の知識・経験を活かし、住民に信頼されるリスクコミュニケーターを育成し活用

~ 土壌汚染対策に係るリスクコミュニケーションを担う人材の育成と活用の推進 ~

- リスクコミュニケーション技術の開発(公募・実証)
- リスクコミュニケーション・ガイドラインの作成
- 人材育成プランの作成
- 人材保有・派遣・活用プラン及びシステムの作成

モデル事業の実施とフィードバック

将来的には、リスクコミュニケーター認定制度(仮称)の創設の検討



知識と経験を有したシニアの活用

高齢者の雇用促進
 高齢者・団塊世代の再チャレンジ支援
 ('2007年問題'対応)